

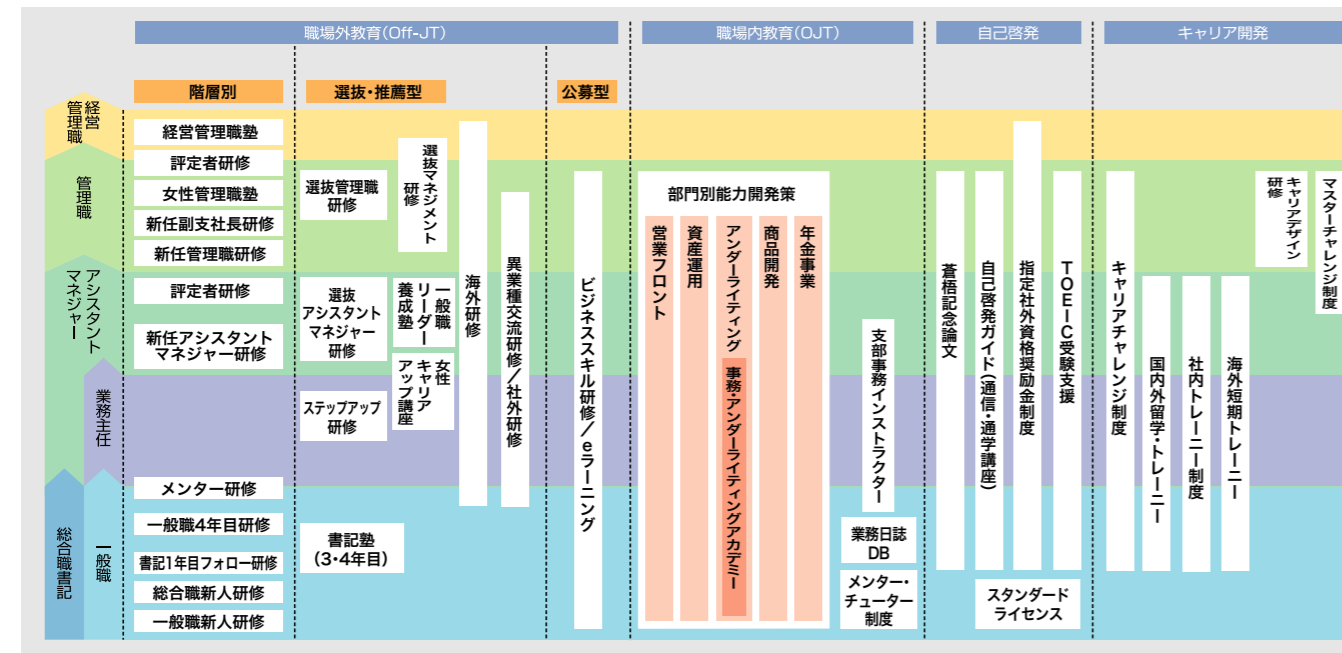
内勤職員の活性化

お客さまに選ばれ続ける会社となるためには、役職員一人ひとりが「お客さま本位」の価値観を共有し、競争力強化のための「プロフェッショナル」と総合力発揮のための「チームワーク」を、同時に追求することが必要と考えます。当社は、このキーワードを核に、職員一人ひとりの自律的な能力開発を多面的に支援するため、さまざまな育成・研修プログラムを用意しています。



多面的な能力開発の支援体制

能力開発体系では、①職場外教育、②職場内教育、③自己啓発支援、④キャリア開発支援を4つの柱としています。



職場内での新入職員育成(OJT)

メンター制度 総合職新入職員の配属に伴う不安の軽減を図るため、「メンター制度」を導入しています。新入職員1名につきメンター1名をつけ、仕事面や生活面などについてアドバイスをし、上司と連携をとりながら「1年後のあるべき姿」を明確にしたうえで計画的に育成していきます。

チューター制度 一般職新入職員の公私にわたるパートナーとして、「チューター制度」を導入しています。具体的には、同じ担当である先輩一般職から、「社会人としての基本動作」、「仕事をしていくうえでの基本動作」の指導を行います。

the Voice

メンター
柏支社 古塚 大介 (写真左)

一つひとつの仕事の意味や背景について、自分で考えながら行動するよう指導しています。また、最も年の近い先輩として、何でも気軽に相談できるような雰囲気づくりを心掛けています。私自身も、後輩からの質問で自分では考えつかなかった問題点に気づくなど、良い刺激を受けています。



新入職員
柏支社 細川 典慶 (写真右)

「新人らしく元気よく!」「周囲の信頼を得るため何をすべきか、常に考える」と日々厳しい指導を受けています。「今の自分の力で組織に貢献できることは何か」という意識を持って仕事に取り組めるようになってきました。また、仕事以外のさまざまな相談にも乗っていただき、非常に頼りになる先輩です。

さまざまな機会での職場外教育(Off-JT)

社外研修 経営戦略策定、論理的思考力、マネジメントなどのスキルを体系的に習得し、個々の能力開発を図ることを目的として派遣しています。

the Voice

ビジネスプロフェッショナルの経営戦略研修
国際業務部 殿島 琢也



他企業の実例を用い、実践的な戦略思考を身につけられました。さまざまな企業の参加者との議論が行われ、柔軟な思考過程やスキルを伸ばすことができましたと思います。

異業種交流研修 異業種の他社ビジネスパーソンとの交流・討議を通じて、先入観や固定観念を打破し、自己変革を実現することを目的として派遣しています。

the Voice

ロジカルコミュニケーション研修
契約サービス部 高山 史子



会話をロジカルに進める手法をテーマに、他企業からの女性参加者とグループ対話を進めました。この研修に参加することで視野も広がり、働く女性としての思いも共有できました。

キャリア開発と自己啓発支援

キャリアチャレンジ制度 「自ら志向する職務にチャレンジする職員」に対し、公募という形でチャレンジの場を設け、職務選択の機会を幅広く提供しています。

the Voice

札幌総合支社 宮崎 雅子

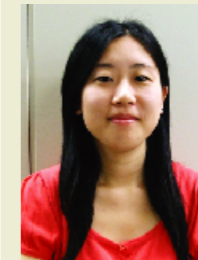


検査部で支社検査を約6年担当しました。全国で女性職員が頑張る姿を見て勇気づけられ、積極性が増しました。無駄な仕事を省くポイントも学び、現在の業務効率化に非常に役立っています。

社内トレーニー制度 主に一般職を対象に、社内業務トレーニーを通じて他担当業務や関連業務を経験し、業務知識の拡大、幅広い視野を身につけることを目的としています。

the Voice

営業人事部 水野 由加里

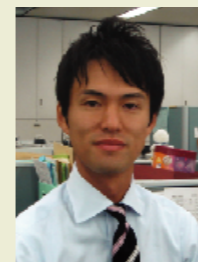


入社以来お客さまと接することがなかったので、コールセンター業務に応募しました。大切なお客さまが数多く存在することや、お客さまのお申出に対し適切な対応をすることの重要性を実感しました。

グローバル人材育成 専門スキルだけでなくグローバルな視点を持つ人材育成のため、海外派遣、海外留学・トレーニーとしての派遣を積極的に行っています。

the Voice

米国AFLACへ
営業開発部 西 友一



半年間、AFLAC米国本社にて代理店チャンネルを活用した営業戦略業務に携わりました。外国市場でのチャンネル戦略を学びつつ、AFLAC社員の豊かな発想力に非常に刺激を受けました。

蒼梧記念論文 創立者矢野恒太の生誕百周年を記念し、昭和41年に創設された社内論文制度です。業務の中で発見した課題に対し、解決策を論文として提言することにより、職員一人ひとりの課題解決力の向上を図ります。

平成19年度 最優秀賞

テーマ：「連結経営時代の経理部門のあり方」
収益管理部 稲富 秀人 / 野地 裕敬